

## 平成 26 年度（後期）海外渡航旅費助成金成果報告書

東京大学地震研究所  
修士課程 2 年 案浦 理

日本地震学会の海外渡航旅費助成を受け、2014 年 12 月 15 日から 19 日までの 5 日間にサンフランシスコで行われた AGU Fall Meeting 2014 に参加して参りましたので、その成果を報告させていただきます。

AGU Fall Meeting は毎年 12 月にサンフランシスコで行われる地球物理学全体の大会です。本年度は参加者が 24000 人を越え、会場は例年の Moscone Center だけでなく、Marriott Marquis にも拡大されました。国内学会ではみられないような会場の規模、どこまでも果てしなく続くポスター群にただ圧倒されるばかりでした。

私は最終日のポスターセッションで「Seismic wave radiation energy of deep low-frequency tremor in the Nankai subduction zone」というタイトルで発表を行いました。沈み込み帯のプレート境界で発生する深部低周波微動の取り逃がしを減らした新たなモニタリング手法を開発し、その手法を適用して得られた微動の地震波輻射エネルギーの空間分布の特徴について主に議論した発表でした。発表を聞きにきてくれる人が少なかつたらどうしようかなどと、不安も感じていましたが、いざ発表時間が始まると日本人の方、海外の方を問わず非常に多くの方々に質問をしていただきました。論文の著者名でのみお目にかかっていた有名な研究者の方々も次々と自分の発表を聞いてくださり大変な興奮を覚えました。声がかれる寸前までたくさんの方々に説明を続け、セッションに割り当てられた 4 時間以上の時間はあっという間に過ぎました。振り返ってみると、もう少し簡潔に分かりやすく説明できた部分があったのではないかと反省点もみつけました。来年の AGU ではもっと良い発表をするべくさらに精進を続けようと決意を新たにしました。

発表のほかに、大会で特に印象に残ったのは大会 3 日目の Student breakfast に参加したことです。世界各地からの学生が集まりテーブルごとに分かれて朝食を囲みました。周りは皆全く見知らぬ方々ばかりで、全て英語でコミュニケーションをとるという貴重な経験ができました。隣に座った方はパキスタン出身の方で、現在はドイツの大学の博士課程在籍、修士課程時代は筑波大学に在籍されていた人でした。パキスタンでは地震が頻発するものの地震の専門家が少ないため、防災業務が十分に行えない状態にあるそうです。この現状を打破すべく世界各地を飛び回り地震研究に身をささげるその方の姿が、日本の地震防災に全力で貢献したいと考えている自分と重なり、大変勇気をもらいました。

最後になりましたが、日本地震学会による海外渡航旅費助成により、AGUへの参加・そして研究発表という大変貴重な経験を得ることができました。このような機会を与えてくださった日本地震学会と関係者の皆様には心から御礼申し上げます。ありがとうございました。